

住宅街における夜間防犯に対する住民意識に関する研究

秋田大学 学生会員 ○佐藤 里美
秋田大学 正 会 員 日野 智
秋田大学 正 会 員 木村 一裕
秋田大学 正 会 員 鈴木 雄

1. はじめに

近年、全国的に「安全・安心のまちづくり」が進んでおり、秋田県でも自主防犯活動団体数が増加するなど防犯への関心が高まっている。しかしながら、夜間の日常的な防犯対策を行っている地域は、秋田市などにおいても非常に少なく、住宅街の明るさも必ずしも十分とは言えない。そのため、夜間は犯罪に遭遇する危険を感じる人が多いと予想され、住民の安心な暮らしを実現するための対策が不十分と考えられる。

本研究では、地域住民が日常生活で危険や不安を感じている点、また、様々な防犯対策に対する意識を明らかにする。そして、夜間における安心な暮らしを実現する対策の提示を目的とする。

2. 現地調査による夜間環境の実態把握

(1) 現地調査の概要

本研究では研究対象地区の照度測定、街灯位置、道路幅、不安を感じる点について、平成 20 年 11 月に現地調査を実施した。研究対象地区を決定するにあたり、主な資料として警察で閲覧した犯罪統計(秋田県警平成 18 年度～平成 19 年度)を用いた。調査対象地域は犯罪数が多い秋田中央警察署、秋田東警察署管轄内とした。また、秋田市での防犯活動の実態把握のために行った秋田県庁、秋田市役所へのインタビュー調査をもとに、御所野、泉、楯山の 3 地区を選定した。

(2) 夜間環境評価の地域間比較

各地域での照度測定の結果、御所野地区は泉・楯山地区に比べて街路がやや明るいことがわかった。しかしながら、いずれの地区でも街灯間中央(最小値)で 0.5 ルクス未満の街路が大半を占めており(図 1)、街路の明るさが十分でないと言える。街灯

位置に関しては御所野・泉地区はほぼ均等に配置されていた。泉・楯山地区は高い塀や空き地も多く、不安を感じる場所がいくつかあった。しかし、どの地区でも路上駐車や、落書きなどの環境の悪化はほとんど見られなかった。

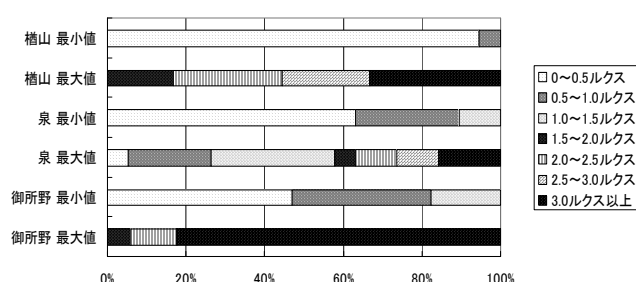


図 1 地区別に見る街灯間の照度測定結果

3. 夜間の犯罪不安について

(1) 意識調査概要

研究対象地区住民を対象とする意識調査を実施した。調査は平成 20 年 12 月に直接配布・郵送方式にて実施した。調査では夜間の不安感、防犯意識を質問している。

(2) 夜間における不安感

意識調査において自宅周辺における夜間の不安感を質問した結果、約半数の被験者が不安を感じていた。男女別では女性の方が不安感が高く、昼夜で通路を変えている被験者も多い。

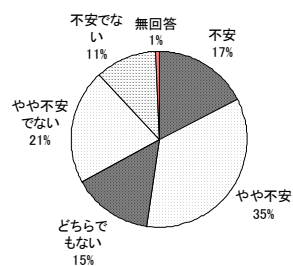


図 2 夜間の不安感

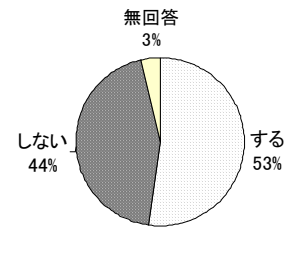


図 3 不安を感じる被験者の昼夜での通路変更

キーワード：夜間防犯、CS ポートフォリオ分析、ロジット型価格感度測定法 (KLP)

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL (018)-889-2767 FAX (018)-889-2975

(3) 不安感と環境要因の関連性評価

本研究では、現在の夜間環境において重点的に改善すべき項目を把握することを目的とし、CS ポートフォリオ分析を行った。

CS ポートフォリオ分析は、各項目の現状の満足度と、総合満足度向上への期待度結果をそれぞれ標準化(偏差値化)し、各項目の優先的な改善が期待される度合いを把握する手法である。また、その結果をプロットしたものがCS プロット図である。

地区別のCS プロット図を図4に示す。各地区において最も優先的に改善すべき項目は「街灯の少なさ」であり、「人通りの少なさ」がそれに次いでいる。改善すべき項目に差はないものの、檜山地区は他の地区より不安感が高いことがわかる。また、男女別、子供の有無別で比較した結果においても「街灯の少なさ」、「人通りの少なさ」が優先的に改善すべき項目として挙がっており、これらの項目に関しては早急に改善されることが望まれる。

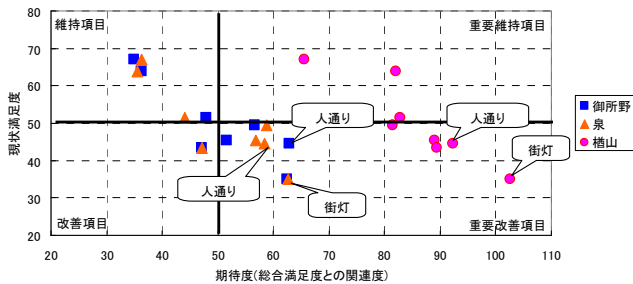


図4 地区別に評価したCSプロット

4. 夜間の防犯意識について

(1) 夜間の防犯対策に対する意識評価

現在実施している夜間の防犯対策として、「施錠」、「家族の送り迎え」、「環境美化」が多い結果となった。また、今後必要だと考えられる防犯対策については「防犯灯を新たに設置する」、「警察によるパトロール」が非常に多い。

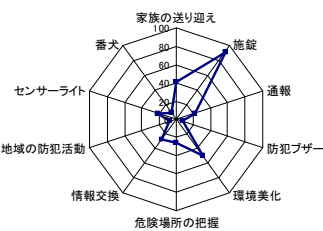


図5 現在の夜間の防犯対策

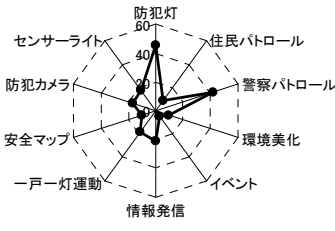


図6 望まれる夜間防犯対策

(2) KLPによる防犯対策費用負担意識評価

KLP(ロジット型価格感度測定法)¹⁾はある商品に

対して「安いと感じる」、「高いと感じる」、「高すぎて買わない」、「安すぎて買わない」という4つの価格を消費者に質問する。回答された価格からロジットモデルで回帰した相対累積度数曲線を描き、その交点の価格を評価指標とする(図7)。

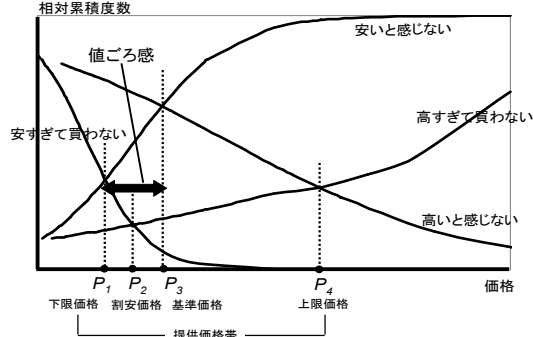


図7 ロジット型価格感度測定法(KLP)の評価指標

本研究では地域や自宅の防犯性向上のための費用に対する価格感度を質問した。なお、「安すぎて買わない価格」は「安すぎて防犯性を高めるには不十分で不安を感じる」価格として質問している。

防犯対策費用に対するKLPの評価指標を表1に示す。基準価格をみると、御所野・泉地区で防犯対策費用として負担できる価格感度に大きな差はない。しかしながら、檜山は他の地区より下回った価格を示しており、負担感が強いと考えられる。

表1 KLP 評価による1年間あたりの防犯対策費用

	下限価格	割安価格	基準価格	上限価格
総合	1275円	1485円	2835円	5267円
御所野	1027円	1233円	2488円	5392円
泉	1315円	1568円	2955円	4676円
檜山	568円	715円	1702円	3008円

5. まとめ

「街灯の少なさ」、「人通りの少なさ」から不安感を感じることがわかり、これらを改善することが住民の安心感向上につながるものと考えられる。街灯については費用の面から考えても新規防犯灯の設置が望まれる。人通りについては日常的な夜間パトロールが考えられる。しかし、現状では住民が参加しにくいために継続的な防犯対策になるとは言えない。そのため住民が参加しやすい仕組みづくりが今後の課題といえる。

参考文献

1) 岸邦宏・内田賢悦・佐藤馨一：航空運賃に対する利用者の価格感度に関する研究，土木計画学研究・論文集，No. 16，pp. 187-197，1999。